

1 1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率

算式

【分子】

分母対象例のうち、当該入院期間中に「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した患者数

【分母】

測定期間内の退院患者のうち「胃がん」を主病名として入院し、「K6552胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-42噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K6572胃全摘術 悪性腫瘍手術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した退院患者数

定義

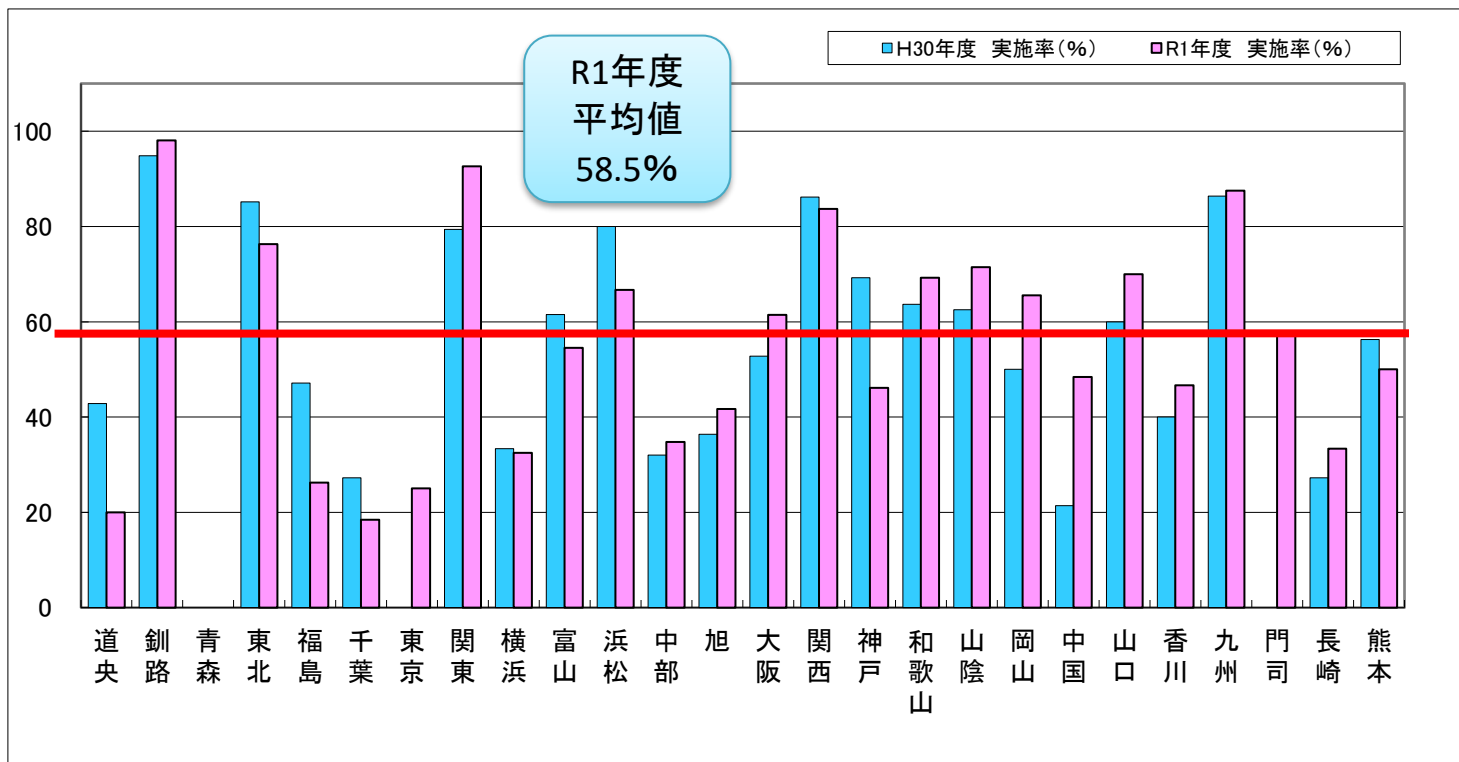
「胃がん」を主病名として入院し、悪性腫瘍手術を実施した患者のうち腹腔鏡下での手術実施割合

指標の解説

DPCデータより抽出

腹腔鏡下手術の有用性としては、開腹手術と比較し、入院期間の短縮、腸管運動の早期回復、術後の疼痛軽減等が挙げられており、当該手術の実施率により患者の負担軽減、社会復帰への貢献度を評価する。

1.1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率



No	施設名	H30年度			R1年度		
		分母	分子	実施率 (%)	分母	分子	実施率 (%)
1	道央	7	3	42.9	10	2	20.0
2	釧路	39	37	94.9	51	50	98.0
3	青森	13	0	0.0	13	0	0.0
4	東北	54	46	85.2	38	29	76.3
5	福島	70	33	47.1	61	16	26.2
6	千葉	44	12	27.3	38	7	18.4
7	東京	15	0	0.0	12	3	25.0
8	関東	34	27	79.4	27	25	92.6
9	横浜	36	12	33.3	40	13	32.5
10	富山	13	8	61.5	22	12	54.5
11	浜松	15	12	80.0	9	6	66.7
12	中部	25	8	32.0	23	8	34.8
13	旭	11	4	36.4	12	5	41.7
14	大阪	72	38	52.8	83	51	61.4
15	関西	94	81	86.2	98	82	83.7
16	神戸	13	9	69.2	13	6	46.2
17	和歌山	33	21	63.6	26	18	69.2
18	山陰	32	20	62.5	35	25	71.4
19	岡山	14	7	50.0	29	19	65.5
20	中国	14	3	21.4	31	15	48.4
21	山口	25	15	60.0	20	14	70.0
22	香川	45	18	40.0	45	21	46.7
23	九州	44	38	86.4	24	21	87.5
24	門司	4	0	0.0	7	4	57.1
25	長崎	11	3	27.3	9	3	33.3
26	熊本	16	9	56.3	16	8	50.0
合計		793	464	58.5	792	463	58.5
平均	500床以上	53	35	67.3	52	35	67.3
	400床以上	29	18	60.7	30	20	65.9
	300床以上	27	14	51.9	27	13	47.5
	300床未満	9	2	20.0	13	5	35.9

※対象症例数が複数でない施設については除外した。

※内視鏡手術用支援機器(ロボット支援下内視鏡手術)による手術症例を含む。